

## 第7回沖縄県青壮年・女性漁業者交換大会

瀬 底 正 武

平成14年1月15日、那覇市内の沖縄県水産会館で第7回沖縄県青壮年・女性漁業者交換大会が開催された。本大会では、3人の代表者が日頃の活動成果を発表するとともに第1回大会以来初めて、沖縄県立水産高等学校の生徒の意見発表があり、これまでの大会とはひと味違った雰囲気の中での大会となった。実績発表では、審査の結果「水産物加工と婦人部活動」と題して発表した平良市漁協婦人部の友利恵子氏が最優秀賞に輝いた。

友利さんは平成8年に13名で平良市漁協婦人部を結成し、以後、平成12年度まで婦人部

長を務める。婦人部活動の中心となる水産物を使った商品開発や各種イベントに参加出展し、平成12年度には「海人からの贈り物」が食アメニティーコンテストで農村開発企画委員会理事賞受賞する等本大会のテーマである水産物加工と消費拡大に貢献したことが評価された。

(内容等詳細については、大会資料参照)

友利さんは、来る3月6日から東京で開催される全国大会へ沖縄県代表として派遣される。第7回沖縄県青壮年・女性漁業者交換大会の発表課題、発表者は次の通りです。

発表者	発表課題	所属グループ
當山 すがた 渡久山 州子 友利 恵子	誇りの持てる刺網漁業を目指して マチヤグァー(鮮魚店)を売り込め 水産物加工と婦人部活動	沖 縄 市 漁 協 青 年 部 八 重 山 漁 協 婦 人 部 平 良 市 漁 協 婦 人 部
名 嘉 翼	「意見発表」 おじーと海	沖 縄 県 立 水 産 高 等 学 校 海 洋 技 術 科 2 年 生

大会終了後、懇親会では各漁協及び系統団体、関係機関、市町村水産担当職員等185名が参加し盛会であった。最後に、懇親の場を盛り上げ

てくださった八重山漁協婦人部の皆さん、大会準備等ご協力していただいた関係者の皆さんに対し心より感謝申し上げます。

### — 3人を指導漁業士に認定 —

漁業士の平成13年度認定授与式が「第7回沖縄県青壮年・女性漁業者交換大会」の席上で行われた。今年度は平良市漁協から根間明勇氏、伊良部町漁協から友利義文氏、国吉正雄氏がそれぞれ指導漁業士として認定されました。3氏のプロフィールを紹介します。

#### ○平良市漁業協同組合

根 間 明 勇 (ねま めいゆう)

明勇さんは、昭和30年生まれの47才であります。昭和50年に自ら建造した漁船で漁師としてスタートし、一本釣漁業を柱に漁業技術の向上による経営の安定を図る等独自の漁業経営の管理手法を確立した。また、平良市漁協上野支部の支部長として、組織の強化を図るとともに若い漁業者に漁業技術の指導を行う等組合員からも信頼され地域の信望も厚く漁業振興にも積極的であります。

○伊良部町漁業協同組合

国吉正雄(くによし まさお)

国吉さんは、昭和26年生まれの49才であります。昭和45年から追い込み網漁業を始め先輩漁師の指導を仰ぎながら漁業技術の習得に専念し、今ではアギヤーのリーダーとして、宮古島周辺海域の漁場及び漁具漁法の研究開発にも積極的に取り組んでおります。また、各学校の漁業体験学習等後継者育成にも積極的であると同時に伝統漁法であります。アギヤーの継承にも情熱を傾ける等今後の活躍が期待されております。

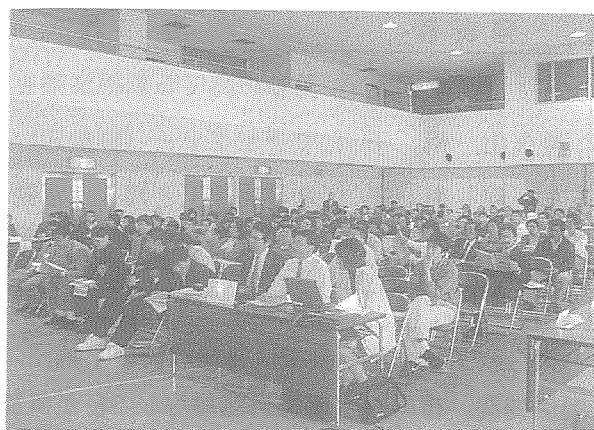
○伊良部町漁業協同組合

友利義文(ともり よしふみ)

友利さんは、昭和24年生まれの52才であります。17才から漁師となり、夏は乗組員6人体制でカツオ船の餌捕りを専門に、冬は矛突漁業を営む等漁業一筋に歩んでこられた豊富な漁業経験の持ち主であります。宮古周辺海域の漁場を熟知し、潮流や魚群の習性を読みとり、それに併せた漁法の確立により安定した漁業経営が図られておりますが、年々資源の減少がみられることから将来的には資源管理型漁業の必要性を提唱している1人であります。また、若い漁業者の指導や後継者育成にも積極的であります。



毎年協同組合の歌を披露して下さる系統団体の皆さん



熱心に発表に聞き入る参加者の皆さん



指導漁業士に認定された根間明勇氏、友利義文氏、国吉正雄氏(左から)



発表者(前列右から):名嘉翼君、友利恵子氏、渡久山州子氏、當山すがた氏